第５学年　社会科　学習指導案

１．小単元名『社会を変える情報』

（教科書：『小学社会５下』p. 12～21／学習指導要領：内容（４）イ）

２．小単元の目標

○　情報化した社会において，離れた場所からも安否確認ができる情報機器の発達などについて意欲的に調べることで，情報化の進展がわたしたちの国民生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えることができる。

○　わたしたちの身のまわりにある多種多様な情報の中から，必要とする情報・価値ある情報を見分けて収集したり，情報の働きや意味を考えて発信したりすることができる。

３．小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
情報化した社会の様子として, 安否確認ができる便利な情報機器に関心をもち, 生活の中に普及している情報ネットワークの働きや自分たちの生活とのかかわりについて意欲的に調べようとしている。	情報化した社会の様子について, 自分の考えを表現するとともに, 新潟県十日町市の高齢者安否確認の取り組みについて考え, 発表したり文章に表現したりすることができる。	情報化した社会の様子について, 各種の資料や調査をしたり, インターネットを活用したりして必要な情報を集め, 情報ネットワークを有効に活用していることを読み取ってまとめている。	情報ネットワークは防災などに有効に活用され, わたしたちの生活を守ったり便利にしたりしていることを理解している。

４．指導にあたって

（１）児童の実態

本学級では祖父母と同居している児童は２人で，ほとんどの児童は祖父母と離れて暮らしている。祖父母と会うのは年１，２回という児童も 10 人ほどいる。そのため，祖父母や遠くに住んでいる親戚の様子がすぐにわかる情報機器に興味をもつ児童も少なくないと考える。本小単元の導入では，使用したらメールで連絡が来て安否確認ができるポットを例示し，他に様々な安否確認ができる機器を児童が調べることで，情報ネットワークの有用性を実感してほしいと考える。

（２）教材について

本小単元では，情報機器によるネットワークの有用性とともに，「人と人とがつながって」得られる情報の大切さも実感してほしいと考える。そのために新潟県十日町市で取り組んでいる高齢者安否確認の事例を取り上げる。十日町市は安否確認のために日本郵便と提携し，月一回，無償で一人暮らしの高齢者の家に絵はがきの配達を依頼している。この絵はがきは郵便配達員が直接手渡して

配達することで，配達と同時に安否確認を行っている。これらの事例を通して，便利な機器だけで安心を得るばかりではなく，人と人とが直接会うことで安心や安全を得ていることをとらえ，人と人とがつながることの大切さを実感できると考えた。

（3）指導上の工夫・留意点

本小単元は，まず前半で通信機能つきのポットに着目し，そこから「なぜそのような機能がついているのだろう」という問いを引き出す。そして「他にも高齢者の安否確認をする方法があるのだろうか」と興味をもたせて追究させることで，便利な情報機器のおかげで，人と人とがつながり，一人暮らしで遠くに住んでいる人でも安心であることを実感させる。後半では一人暮らしの高齢者のために訪問する十日町市の郵便局員の事例を取り上げ，「便利な機器があるのに，なぜわざわざ郵便配達員の人が一人暮らしのお年寄りの安否確認をするのだろう」という問いを引き出す。そして便利な情報機器でつながることも大切であるが，人と人とが直接つながることで心もつながり，さらなる安心を生み出していることを実感できるようにしたい。また普段，何気なく行っている地域の方へのあいさつや健康観察，友だちと顔を合わせることも，重要な情報獲得の手段であることを意識させたい。

５．小単元の指導計画（総時数９時間）

時	ねらい	○学習活動　・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
①（出会う）	ポットから情報を伝えることができることを知り，そのような情報機器に関心をもつことができる。	○ポットの写真からわかることをノートに書く。 ・通信機能がついている。 ○使用するとメールが送られることを知る。 ○なぜそのような機能がついているかを話し合う。 ［なぜポットにこのような機能がついているのだろう。］ ・安全のためについているのかな。 ・誰かに知らせるためだよ。 ・お年寄りに知らせるのかな。 ○他の電気製品にもこのような機能がついているのかを調べてくるように指示する。（教科書，資料集，図書館の資料，インターネットなど）	◎ポットの拡大写真 ◎象印マホービン株式会社のウェブサイト ◇祖父母の生活の様子など，各家庭の状況について，深く掘り下げないように配慮する。 ◆安否確認ができる情報機器について興味をもち，なぜこのような機能がついているのか，関心をもって調べようとしている。（関・意・態／発言）

②③（調べる）	安否確認できる機器について,調べることができる。	他にも安否確認できるものがあるのかな。 ○インターネットを使って検索する。 ・テレビやガスなどにもついている。 ・とても便利なものがたくさんあるんだな。	◎インターネット ◇検索する際に，戸惑っている児童には「安否確認　機器」などキーワードを教師側から提示するとよい。 ◆安否確認できる機器が他にないか，意欲的に調べている。 （関・意・態／観察・発言）
④（関わる）	機器に安否確認機能がついている理由について,理解することができる。	○なぜこれらの機器に安否確認機能がついているのか,グループで話し合い，全体で考えを深める。 なぜ機器にこのような機能がついているのだろう。 ・どんなに遠くても，すぐに知らせがきて確認できて，便利だからだよ。 ・便利な情報機器のおかげで,お互いにつながることができ,一人暮らしで遠くにいても安心だ。	◎前時までに調べた資料 ◇遠くにいる親戚の存在などと結びつけて，機器があれば遠くに一人暮らしでいても安心であることをつかませる。 ◇同様の機器として，携帯電話を挙げる児童もいるので，他の機器と比較させて，その長所や短所を考える機会を設けてもよい。 ◆機器に安否確認機能がついている理由について，自分の考えを書き，表現している， （思・判・表／ノート・発言）
⑤（出会う）【本時】	郵便配達員の人が一人暮らしのお年寄りを訪問する意味について考えることができる。	○写真を見て,気づいたことを出し合う。 便利な機器があるのに，なぜ郵便配達員の人が一人暮らしのお年寄りの安否確認をしているのだろう。 ○郵便配達員の人が訪問する意味について自分の考えを書き,グループで話し合う。	◎郵便配達員とお年寄りの方の写真 ◇写真に示された事例の情報については，子どもとやりとりしながら，教師から適宜提示していくようにする。 ◆郵便配達員の人が訪問する理由について，自分の考えを書いている。 （思・判・表／ノート・観察）

⑥⑦（深める）	郵便配達員の人がお年寄りの安否確認をするために訪問する意味について,考えを深めていくことができる。	○前時の児童の考えをもとに,教師が最初の発言者を意図的に指名し,全員でその考えを深めていく。 ・欠席した時に，直接プリントを持ってきてもらうと嬉しい。 ・直接顔を合わせることでしか伝わらない情報があり，そうすることで心のつながりができて，一人暮らしでも安心だ。	◇前時の児童の学習感想などから教師のねらいに近いものを見つけ，最初の発言者として決めておき，話し合いを進めていく。 ◇児童の身近な例から考えを深めていけるようにする。 ◆友だちの考えについて自分なりの解釈をもち，発言することができる。 （関・意・態／観察・発言）
⑧⑨（関わる）	自分たちの身のまわりの情報伝達について考えることができる。また，この単元を学習してわかったことや考えたことをまとめることができる。	○直接顔を合わせて情報を伝えることとは,自分たちの身のまわりでも行われているか，考える。 ［自分たちの身のまわりで，このような取り組みはないだろうか。］ ・健康観察は友だちの様子がわかるね。 ・普段のあいさつでも友だちの状態がわかるかな。 ○単元を振り返っての感想を書く。 ・便利な機器を使って連絡を取り合ったり，情報を得たりするのもいいけど，人と人とが直接会うことも，大切にしていきたいと思った。	◇自分たちの一日の行動を発表させて，その中から人と人とが直接会って情報を得ている場面を挙げ，そこからどんな情報が得られるかを考えさせる。 ◆自分たちの身のまわりで，直接顔を合わせることで情報を得られるのはどのような場面かを考え，その大切さを実感することができる。 （思・判・表／ノート・発言）

６．本時の指導（第５時）

（１）本時のねらい

便利な情報機器があるのに，なぜ郵便配達員の人たちが一人暮らしのお年寄りの安否確認をしているのかについて自分の考えをもち，予想することができる。

（２）本時の展開

時配	○学習活動　T：発問　C：児童の反応	◎使う資料　◇留意点　◆評価
2	○前時までの授業を振り返る。 T：これまで調べたものを振り返ると，安否確認できる情報機器には，どんなものがありましたか。 C：テレビ。 C：ガスやトイレのドアにつけるものもあったよ。 T：このような機器があると，なにが便利でしょうか。 C：遠くに住んでいても，様子がわかって安心だ。 C：県外に住んでいるおじいちゃんにも教えてあげたいな。	◎これまでに調べた，安否確認できる情報機器の写真 ◇安否確認できる情報機器の便利さについて，再度おさえる。
8	○郵便配達員の人が一人暮らしのお年寄りに絵はがきを渡している写真を見て，わかることを出し合う。 T：今から写真を見せますので，わかることを言ってください。 C：絵はがきを手渡ししているんだ。 C：なぜ手渡しをしているのかな。 C：一人暮らしで大丈夫か，確認しているのかな。 C：でも便利な機器があるよ。	◎郵便配達員とお年寄りの方の写真 ◇児童の考えやつぶやきをつないで，クラス全体で共有する。
30	○郵便配達員がお年寄りの安否確認をするようになった目的を考え，グループで話し合う。 ［便利な機器があるのに，なぜ，わざわざ郵便配達員の人が一人暮らしのお年寄りの安否確認をするのだろう。］ ○クラス全体で交流する。 C：わざわざ確認するのは配達員さんが大変だ。 C：仕事でしているんだよ。 C：声をかけるだけなら，しなくてもいいんじゃないかな。 C：情報機器だけでは本当に安心かわからないよ。 C：直接会って話したほうが，いろいろわかるよ。	◇これまで学習した情報機器をの写真を掲示し，比較できるようにする。 ◆郵便配達員の人が訪問する理由について，自分の考えをもち，グループで意見交換ができている。 （思・判・表／ノート・観察）
5	○今日の授業の感想を書く。 T：今日の授業を振り返って，感想を書いてみましょう。 C：やっぱり，郵便配達員の人が安否確認するのは大変だ。 C：何かあった時のために様子を確認しているんだ。	◆自分の思ったことや友だちの発言のよかったところなどを書いている。 （関・意・態／ノート）

７．備考

○　小単元の導入で，象印マホービン株式会社の通信機能つき電気ポットを取り上げたが，最近の児童はこのタイプの電気ポットが家庭になく，身近ではなかった。他にも同様の機能がついた機器は多くあるので，児童の実態に合わせて，他の機器を導入で取り上げてもよいと思う。

○　郵便配達員の人がお年寄りの安否確認を行っている写真を提示した。この取り組みは「シルバーポストカード事業」という名で新潟県十日町市が行っており，市と日本郵便の「ひまわりサービス」（高齢者在宅福祉支援の取り組み）とが提携して行っている。多くの自治体では郵便配達のついでに安否確認をするという取り組みが多いが，十日町市では安否確認のために，市が一人暮らしの高齢者に絵はがきを送っている。今後このような取り組みを行う自治体が増えてくることも考えられるので，近くの自治体で聞いてみるとよい。

○　写真に載っている高齢者の方は「シルバーポストカード事業」のサービスを受けているが，家には通信機能つきポットのような機器は置いていないとのことだった。機器を持っているにもかかわらず，人と人とが触れ合う安否確認方法がよいという選択をされた方がいれば，なお子どもたちを揺さぶることができ，思考も深まると思った。

○　単元構成は３段階になっており，それぞれの段階でのねらいは以下のようになる。

１段階…便利な機器のおかげで，離れた場所どうしでもつながることができ，一人暮らしをしていても安心である。

２段階…便利な機器でつながるだけでなく，人と人とが直接会うことで心のつながりができ，より安心である。

３段階…普段わたしたちが交わしているあいさつなど，何気ない行動でも，たくさんの情報がやりとりされている。